

はじめに、バスの検証運行(※1)を実施するために、運行計画(※2)を作成します。

運行計画の検討では、収支率40%以上(※3)となることを前提に、地区別のバス利用ニーズに応じて柔軟に対応します。

※1 バスの検証運行とは

本格運行の実施を判断する上で、バス路線導入効果を確認するため、一定期間、バスを運行すること

※2 運行計画では、以下の事項を設定します。

- ・バスの運行経路
- ・バス停の位置
- ・運行便数(時刻表)
- ・運賃
- ・使用する車両の種類 など

※3 収支率とは

バスの運行経費に対する運賃等の収入の割合です。計算式は以下の通りです。

【計算式】

$$\text{収支率} = \frac{\text{運賃収入(バス利用人数} \times \text{利用頻度} \times \text{運賃}) + \text{広告収入や協賛金}}{\text{運行経費(人件費, 燃料費, 車両修繕費, 車両償却費, 利子, 諸経費等)}} \Rightarrow 40\% \text{以上}$$

【例】経費5千万円/年とした場合、2千万円/年の運賃収入が必要  
仮に運賃を一律100円とした場合 20万人/年の利用者が必要

【参考】収支率40%以上を達成するには

- ・運行距離や運行本数が増えると、経費が高くなるため、多くの利用者が必要となります。
- ・利用者数に応じたサービス水準の設定が、収支率40%以上の達成には必要不可欠です。